

相愛大学研究シーズ集

シーズ名	高次脳機能障害を有する高齢者の認知機能改善に向けた新しい運動トレーニングに関する検討
所属	人間発達学部 発達栄養学科
氏名	藤本 繁夫
<p>【概要】</p> <p>近年、交通事故の後の高次脳機能障害を持つ障害者が増加しつつある。また一般に高齢者の多くでは脳動脈硬化に伴う脳血流障害が起因して注意機能の低下や、認知機能障害が認められる。これらの人では、不活動性も加わって、日常生活活動が障害されている。さらに、高齢化に伴って、心血管疾患、糖尿病や脳血管疾患が合併していることがおおい。今までに、運動時では脳血流の増加に伴って運動中の注意機能が改善すること(体力科学. 61; 313-318. 2012)、その効果は高齢者でも認められること(総合リハビリテーション 41; 553-559. 2013)、さらに高齢の肺疾患患者でも運動トレーニングにより認知機能の改善がみとめられることを報告してきた(日本臨床. 72; 721-725. 2014)。これらを背景にして、今回は高次脳障害を持つ高齢者に注意機能の改善を目指した新たな運動トレーニングを指導し、注意機能、認知機能に及ぼす影響を検討する。</p> <p>【研究の期待される成果】</p> <p>認知機能は脳の海馬領域を中心にした機能低下が一因になっている。その誘因として同部の障害に加え、高齢に伴う脳血管障害により、脳血流の障害が認知機能低下を助長していることが報告されている。近年、運動がこの脳血流の改善に伴って認知機能を改善することが報告され、我々も運動と脳機能の活性化に関する研究を続けてきた。今回の研究の注目点は、大きな声を出しながら運動する、即ち脳を活性化を刺激しながら運動を行うことが、海馬の活性化を促すことで脳機能、特に注意機能の改善をより効果的にすることが期待される。この新たな運動トレーニング</p> <p>【今後の展望】</p> <p>この研究は今後、認知機能と本学科の専門である栄養の関わりに発展させていく予定である。</p>	
キーワード	高次脳機能障害・高齢者・認知・運動・栄養